



## 春の高山祭「山王祭」と煌びやか屋台



計測と科学  
毎月第2・第4日曜日発行  
日本計量新報社

東京都江東区亀戸7丁目62-16  
〒136-0071 TEL 03-5628-7070  
FAX 03-5628-7071  
<https://www.keiryou-keisoku.co.jp/>  
購読料年間 28,600円(消費税込み)

## 新年特集

新日本百景  
自然歳時記

高山祭とは春と秋の2つの祭を指す総称。春の高山祭(山王祭)は旧高山城下町南半分の氏神様である日枝神社(山王様)の例祭で毎年4月14日と15日に開かれる。秋の高山祭(八幡祭)は城下町北半分の氏神様である櫻山八幡宮の例祭で毎年10月9日と10日に開かれる。祭の起源は飛騨の領國大名金森氏の時代(1585年から1692年)、屋台の起りは1718年頃といわれ、人形の動きを巧みに操る「からくり奉納」と仕掛けが施された「戻し車」が披露される。2016年には「高山祭の屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

高山に春を告げる山王祭の舞台となる安川通りの南側の上町には、祭の屋台組の宝である屋台12台が並び、そのうち3台が「から

くり奉納」をする。春の高山祭の豪華絢爛な12台の祭屋台は「動く陽明門」とも称される。闘鶏楽(とうけいらく)や袴姿(かみしもすがた)の警固など伝統の衣装を身にまとった数百名の祭行列が、お囃子や雅楽、獅子舞に先導されて町中をまわる。夜は提灯を灯し、屋台をライトアップして練り歩く。

写真はある年の春の高山祭。4月14日の朝に松本市の美ヶ原温泉の宿を発つ。高山市までは2時間。サクラの花が咲く信濃路と飛騨街道であり、祭り見物には日傘が要るほどの日差しとなった。10月9日と10日の秋の高山祭は駆け足で見ていたが、今回の春の高山祭はゆったりと楽しむことができた。

(文章と写真は夏森龍之介)

2026年 謹賀新年

 **SHIMADZU**  
Excellence in Science

# 2026 謹賀新年

NEW



島津製作所はこれからも  
お客様の計量作業をサポートしてまいります。

株式会社 島津製作所 分析計測事業部

東京支社 天びん営業課

[担当地域 北海道・東北・関東・甲信越・静岡県]  
TEL (03) 3219-5705 FAX (03) 3219-5610

関西支社 天びん営業課

[担当地域 北陸・東海\*・近畿・中国・四国・九州・沖縄]  
TEL (06) 4797-7277 FAX (06) 4797-7299

\* 静岡県は東京の天びん営業課の担当です。